2024年2月NHK中国地方放送番組審議会

2月のNHK中国地方放送番組審議会は、15日(木)、広島放送局において、12人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「2024年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」についての報告があった。引き続き、「2024年度中国地方向け地域放送番組編集計画 (案)」の諮問にあたって説明があり、審議の結果、番組審議会として原案を可とする旨、答申することを決定した。続いて、放送番組一般も含めて活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、3月の番組編成の説明が行われ、 会議を終了した。

(出席委員)

委員長 河本 清順 (NPO法人 シネマ尾道 代表理事)

副委員長 細野 賢治 (広島大学 大学院統合生命科学研究科 教授)

委 員 伊澤 大介 (有限会社森の国 代表取締役社長)

石橋千賀良 (七草農園 代表)

岩崎 誠 (中国新聞社 特別論説委員)

原田 尚美 (やまぐちシードル 代表)

平野真里香 (有限会社平野屋 営業本部長)

福安 佳子 (鳥取大学 非常勤講師)

まつもとゆきひろ (一般財団法人 Rubyアソシエーション 理事長)

水口 昭弘 (水口電装株式会社 常務取締役)

薬師寺明子 (美作大学 生活科学部社会福祉学科 准教授)

渡部久仁子 (特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 理事)

(主な発言)

- <「2024年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について>
- 「午後LIVE ニュースーン」は3時間の生放送ということで意気込みを感じるが、 どのような内容になるのか。また、「新プロジェクトX~挑戦者たち~」は、前作も有 意義なプロジェクトだったが、新たな形になっていくということで、キャスター含め て期待している。

「午後LIVE ニュースーン」は、日本の今をあらゆる角度からいち早くお伝えすることを目指している。災害報道や注目のニュースなどを、なるべく早くお伝えする。大きな柱として、地域からの生中継を考えており、これも日本の今という形で伝えていきたいと思っている。また、これまでデジタルコンテンツとして紹介してきたものも、放送と連携することで楽しんでもらいたいと考えている。

「新プロジェクトX~挑戦者たち~」については、前回の「プロジェクトX」は主に戦後の復興の日本を支えたプロジェクトを取り上げてきたが、今回は平成、令和の不況の中でもキラリと光る、今につながる挑戦者という新しいテーマを据えたことが最大の違いだが、番組の目的としては、前作と同じような方針を貫きたいと考えている。

○ Eテレについては番組方針も含めて期待しており、大変楽しみにしている。二か国 語放送で、ドラマを英語で聞いたり、英語の字幕で見たりできるものが、中高生のヒ アリングにはとてもよいので、さらに進めてもらいたい。

(NHK側)

特にEテレは、幅広い人に映像だけではなく、いろいろな形で楽 しんでもらうのが最大の価値だと思っている。

○ 大リーグは、サブチャンネルを使うにしても放送波が減っているなか中継できるのか。また、今年はパリオリンピックがあり、地上波とは別にBSでも中継すると思うので大リーグがどうなるのかと心配している。さらに、オリンピックの期間中には、8月6日と9日も該当するが、核・平和関連の中継や、NHKスペシャルをはじめとした番組が埋没することのないようにお願いしたい。

(NHK側)

大リーグについては、午前中は大リーグを放送する予定で、これまでとほぼ変わらない形で満足いただけると考えている。オリンピックについては、どの波でどういう放送計画にするのかを検討している段階だが、いただいた意見はしっかり考えていきたい。

- <「2024年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」について>
- 防災の情報発信については、避難場所の設置場所、危険度を自治体に取材して取り上げてほしい。自治体に向けても意識を高めることになるとともに、住んでいる場所、訪れた場所の安全な場所を一人一人が知識として知ってもらえるようになると思う。また、地域の防災については、各地域で取り上げるが、中国地方内で行き来する人も多いと思うので、連携して中国地方に共通したものとして取り上げてもらいたい。
- 広島局のアーカイブスの活用については、貴重なものだと思うので積極的に活用してほしい。過去の番組をそのまま放送するのももちろんよいが、若い世代にわかりやすい作りにすることや、幅広い世代に伝わるアーカイブスの利活用を検討してもらいたい。
- 防災番組について、2023年3月10日(金)にコネクト「中国地方も危ない!?南海トラフ巨大地震」が中国ブロックで放送されたが、各地域に影響のある詳細は、その後各地域で放送するなど、今まで意識していなかった人たちも意識が向くように、各局でも連携した放送があればよいと思う。
- 諮問された「2024年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」については、 委員から出された意見が尊重され具体的な番組編成に生かされることを前提に、原案 を可とする答申をしたい。
- 異議なし。

答申を受け、このあと具体的な地域放送番組編成計画について決 定し、3月の審議会で編成計画について説明したい。

<放送番組一般について>

○ 2月2日(金)の@okayama 離島で発見!ラストファミリー「岡山・豪邸3 50軒の島の謎」を見た。バブル期に豪邸が立ち並んだものの、バブル崩壊後に人も いなくなったが、利便性が悪いながらも新たに思いを持って移り住む人が空き家を活 用して頑張っている姿は、時代の変遷とともに様々なことを考えさせられる番組だっ た。

(NHK側)

「離島で発見!ラストファミリー」は、全国放送された番組を岡山の部分だけ再構成した。豪華な建物には、バブルで踊らされた人たちの歴史があるが、それが廃墟ではなく今でも使われていて、新しい共同体みたいなものができている。地域活性化のあり方として参考になればと思い放送した。

○ 2月13日(火)と2月14日(水)の「もぎたて!」を見た。「まちチェン」のコーナーでは、いつもは写真だけだが、今回は現地で取材したものを放送しておりよかった。スポーツでは、ブレイキンの高校生や、ファジアーノ岡山の選手をスタジオに招いたほか、ドジャースに入団した山本由伸選手のキャンプの様子を岡山放送局で放送したのはよかった。

(NHK側)

「まちチェン」は、商店街の時計台がなくなるという話題だったが、時計台に寄せる市民の思いに特別なものがあったので、市民の声を交えて通常よりも膨らませる形で制作した。とても好評だったので、いつもの今昔の映像比較だけではなく、今後もこうした演出を取り入れたい。山本由伸選手は全国放送と同じ映像を使っているが、主語を山本選手に変えると見え方が違ってくるので、岡山県向けにはこうしたサービスを継続していきたい。

○ 2月6日(火)と2月14日(水)の「しまねっとNEWS610」で山口局との「萩・ 津和野おでかけ中継シリーズ・おとなり同士でこんばんは!」を見た。隣の県で行っ てみたいと思える情報を知ることができるので続けてほしい。

(NHK側)

「しまねっとNEWS610」の山口局との中継は、地域の人たちにとって情報性があると思って取り組んでいるので、いただいた意見はありがたい。

○ 2月9日(金)のSEED なやみのタネ「森脇さんのなやみ~人間も動物も幸せに 生きるには」は、10分の番組だが、よい問題提起をしており、学校の教材によい番 組だと思った。取材対象者がナレーションをすることで、より身近な視点で番組が見られたほか、問題が投げかけで終わったことで、関心が向きやすい番組作りだった。

(NHK側)

「SEED なやみのタネ」は全国放送の学校放送番組として放送しているが、「獣害」というテーマは珍しい。映像の力も含めて都会の子どもたちが教材として見たときに、地域の課題を知ることができる内容だったと思う。

○ 1月19日(金)のさんいんスペシャル「島根"唯一"の百貨店〜最後の日々 そして 街は〜」は、各階にあるベンチの作者を含めて取り上げたほか、喫茶店の新たな挑戦 を見ることができたのはよかった。経営陣、社員、店員、客を含めて、さまざまな思 いを持っていることが伝わるよい番組になっていた。今後、経済的にどうするかにつ いて、よいコメントはたくさんあったが、いつも同じ専門家なので違う意見も聞きた かった。

(NHK側)

さんいんスペシャル「島根"唯一"の百貨店」は視聴者の声をも とに制作した。跡地をどうしていくかは、文化にも関わるので、し っかりと取材をスタートしたい。テーマによってさまざまな方にお 話を聞きたいと思っている。

- 2月11日(日)のNHKスペシャル「驚異の庭園〜美を追い求める 庭師たちの四季〜」は、以前「コネクト」で足立美術館を取り上げたものと重なるところはありながらも、違う視点で紹介されており、とてもおもしろかった。山寺宏一さんならではのナレーションで、庭園の趣や庭師の技、思いなど世界観に入りやすかった。ただ、庭師の「忙しいので邪魔しないでください」という発言を取り上げたのは職人の緊迫感を出したいのだろうと思ったが、邪魔になる取材をしているのではないかと感じてしまった。
- NHKスペシャル「驚異の庭園」は、桂離宮と比較して技法や工夫が紹介されとて もよい番組だった。

NHKスペシャル「驚異の庭園」は、庭作りの違いや庭師の視点を比較することで、なぜ足立美術館が日本庭園を取り上げた米誌ランキングで1位に選ばれているのかも分かりやすかったと思う。

○ 1月26日(金)のさんいんスペシャル「とっとり24ボイス〜ハタチの声をきかせて〜」は、24人の個性が出ており、すがすがしい成人式を見た気分にさせてくれた。一方、新型コロナウィルス、災害、戦争を目の当たりにしながら思春期を暮らしてきたZ世代ならではの夢や希望があり、これまで見てきた世界とは大きく違うと思うので、人数を絞って深く掘り下げてもよいと感じた。

(NHK側)

さんいんスペシャル「とっとり24ボイス」は、多くの人を取り上げるか、人数を絞って深く掘り下げるかの悩みはあった。番組を長くすることや25分でどのようなことができるのかも今後検討していきたい。

- 2月9日(金)のコネクト「これからどうなる?わが家の電気」は、まずタイトルがよかった。これほど太陽光パネルが設置されているにもかかわらず、なぜ普及が進んでいないのか、その難しさを専門家がグラフを用いて分かりやすく説明していた。解決方法としてPPA(電力販売契約)が起承転結で紹介されており、電気にまつわるポイントを抑えた番組構成になっていた。電気自動車についても触れてもらえるとよかった。
- コネクト「これからどうなる?わが家の電気」は、中国地方の電気供給の実態と、問題となっている出力制御について分かりやすく伝えており、とてもよい番組だった。ただ、再生可能エネルギーという言葉の定義が分かりづらくなっていたので、最初に提示してほしかった。原子力発電所の再稼働の計画や処理水の問題も解決していない中で、原発ありきでよいのか、安全なエネルギーの産出に向けての議論がますます必要だと感じた。島根県邑南町のPPAの取り組みについても、とても勉強になった。脱炭素先行地域の取り組みやPPAの活用については、地元局でも現況を伝えてほしい。

地域の取り組み状況については、これからのニュースの題材として検討していきたい。

(NHK側)

コネクト「これからどうなる?わが家の電気」について、原発に対して多様な意見があることは認識しているが、今回は再生エネルギーへの出力制御が行われている現状を正しく認識してほしいということが一番のねらいだった。再生可能エネルギーの定義や専門用語については、番組における定義を一言説明するだけでわかりやすくなることもあるので、今後の参考にしたい。

○ コネクト「これからどうなる?わが家の電気」は、二酸化炭素を削減するために火力発電を減らす必要があること、太陽光などの再生エネルギーに課題がありつつも地方自治体が工夫を重ねていることが理解でき、有益な番組だった。しかし、原発が前提であることが気になった。二酸化炭素が排出されないと表現されていたが、排出されないわけではないうえに、ウランの掘り出しから最終処分まで課題は山積みだ。正しく議論や判断ができるようにより一層の工夫をしてほしい。

(NHK側)

今回は、原発に関しては、さまざまな考え方があることは認識した上で現状を分かりやすく解説しようとした。しかしわかりやすくしようとする中で伝わりにくくなる部分もあると思うので、今後の参考にさせていただく。

- 2月2日(金)のYスペ! Yスペ!&コネクト「かが屋の発見!職人クエスト たこつぼ職人・コーヒー職人」は、タイトルどおり職人に焦点が当てられており、見ていておもしろかった。中国地方の連携が多くよいと思う。これからも続けてほしい。
- 「かが屋の発見!職人クエスト」は、いろいろな仕事を知るという観点ではとても 大切なことだと興味深く見た。人材が県外や海外に出て地元に戻ることは地方の活性 化には必要だと思うが、このような番組はその可能性につながるのではないかと思う。 一方、経済的な犠牲や不安要素などの側面も紹介し、実現のきっかけになるような番 組になるとよいと思う。

「かが屋の発見!職人クエスト」は、年度当初は職人の技を紹介することが多かったが、回を重ねるにつれ、人の思いや努力、工夫といった側面を強調する形にしてきた。経済面に関しては取り上げて来なかったが、今後、内容によっては検討したい。

○ 2月9日(金)のYスペ!「青海島 秋から冬」は、季節によって島の北側と南側の生き物の営みが紹介される構成が分かりやすく、テンポもよい自然番組だった。山口県は日本有数の豊富な生き物の生息地だと伝わってきた。前週に前作が再放送されたのもタイミングがよかったし、前回はミサゴをメインに取り上げていたが、今回は海上と海中、鳥や魚とバランスよく取り上げられていたのもよかった。狩りのシーンはナレーションもなく、映像に没入し自然の中に引き込まれた。鳥が養殖の邪魔をしていないのか、人間とどう共存しているのかについて養殖漁師のコメントがあればよかったと思う。

(NHK側)

Yスペ!「青海島 秋から冬」は、足しげく青海島に通い、生き物 に焦点をあてた。人と自然の共存については継続して取り上げてい きたい。

○ 1月26日(金)のコネクト「被爆樹木と生きるAutumn&Winter」は、被爆樹木や樹木医の雰囲気を見事に捉えておりすばらしかった。木の記憶、木と人のストーリーなど一本一本の木を丁寧に描いてもよいと思う。一方、被爆樹木が爆心地方向にすべて傾いているように誤解されるようなナレーションがあったが、広島市が認定する被爆樹木のうち、移植されていない被爆樹木が爆心地方向に傾いているという研究結果があるので、正しく伝えることが必要だと思う。

(NHK側)

被爆樹木の傾きについては、より正しい表現になるよう努めたい。

- コネクト「被爆樹木と生きる」は、映像をつないでいく手法は非常によかった。これからも形式にこだわらずよい番組を作ってほしい。
- 2月10日(土)のJリーグ2025 プレシーズンマッチ「サンフレッチェ広島」 対「ガンバ大阪」(総合 後1:50~4:00 広島県域)の中継をテレビで見ることができて

よかったが、屋根の影がグラウンドに入り込み見づらい場面があった。技術的に解消できるようなら検討してほしい。

○ 2月8日(木)のDearにっぽん「"夢物語"と言われても~広島・ある大学生の模索~」(総合後7:30~7:54.45 広島県域)は、核廃絶を訴える活動に取り組む広島出身の大学生を取り上げたドキュメンタリーで、すばらしい番組だった。曾祖父の体験から核の悲劇を次世代に伝えたいという気持ちも番組内でひしひしと伝わってきた。また、同級生の異なる意見の投げかけは、核廃絶の活動をしている人たちにとって重大なテーマが凝縮されていると感じた。彼が活動自体を模索している姿や、悩みながらも粘り強く「核廃絶の確率を上げていきたい」という答えを番組内で発言したところはよかった。これからも活動を追いかけてほしい。

(NHK側)

「Dearにっぽん」は、広島局で制作し、1月に全国放送した ものを広島向けに放送した。主人公自身がいろいろ考えながら、悩 みながら活動している様子をそのまま取り上げたが、それが伝わっ たことはありがたい。

- 2月12日(月)の鶴瓶の家族に乾杯「生放送スペシャルin広島県府中市!ぶっつけドキドキ生放送!」(総合後7:30~8:52.45)は、やらせや仕込みなしで事前ロケを行い、よくあれだけ作り込んだと感動した。一方で、アナウンサーのキャラクターによるものかもしれないが、職員個人の情報をネタにすることがどこまで許容されるかは議論してもよかったと思う。
- 「鶴瓶の家族に乾杯」は、和やかな雰囲気で、ゲストや地元の方の人柄も十分に伝わってきた。番組の最後の生出前もとてもよい演出だった。
- 2月5日(月)の国会中継「衆議院予算委員会質疑」(総合 前9:00~11:54)は、開会が遅れて長時間サバンナの動物の映像が流れたが、画面右下のワイプでの衆議院第1 委員室の中継映像とミスマッチのうえ、番組のスーパーも中継映像と重なり読めなかった。不測の事態の対応については、常日頃から準備をしてほしい。

NHK広島放送局 番組審議会事務局